

平成 28 年度

事業報告

社会福祉法人 遊佐厚生会

平成28年度 法人の事業報告

1. 経営の概要について

平成28年度は、社会福祉法の改正による社会福祉法人制度改革に関する準備を行った一年となりました。社会福祉法人の公益性・非営利性を確保し、国民に説明責任を果たし、地域社会に貢献する法人のあり方を徹底していくため、経営組織のガバナンスの強化を初めとする多岐にわたる改正内容を盛り込んだ遊佐厚生会の定款変更を行いました。これに基づき今後適切に制度改革について対応していきます。

また、日常的な事業活動に関しては、毎月の経営会議と本部会議を開催し定期的に業績検討によって適切な事業運営に努めてきており、各施設での事業実績の違いはあるものの、法人全体では前年度と同程度の収入を計上することができました。

各事業所の概要を見ると、月光園では利用者の重度化・高齢化が進んできていることから、嘱託医・医療機関との連携を図りながら、利用者の体調管理に万全を期し、家族も安心できる施設経営を行ってきました。ただ、10月初めから年内にわたって感染症による風邪が拡大し、利用者の入院による空床数が増え稼働率が低下しました。一層の感染症対策をしていく必要があります。

ゆうとびいでは、事業形態を多機能型事業所に移行して2年が経過しましたが、生活介護と生活訓練で利用実績が前年度より増加しました。

特別養護老人ホームゆうすいでは、地域貢献事業である認知症サポーター養成講座など認知症対策事業に積極的に取り組んできました。今後、課題である人材育成や加算体制等を確保しながら稼働率やサービス活動収益の向上を目指す必要があります。

特別養護老人ホームにしだてでは、開設3年となり地域密着型介護保険施設として地域に浸透してきた結果、入所、短期の稼働率は前年度以上の実績となりました。

ボランティア活動をしている方々に関しては、法人全体でボランティア懇談会を実施するとともに遊佐町社会福祉協議会との共催でボランティア感謝デーとして白崎映美と朝倉さやの歌による「新春歌謡ショー」を開催し、日頃お世話になっているボランティアの方々に対して感謝の意を表しました。

2. 法人経営について

当法人は、障がい者支援施設・特別養護老人ホーム・老人デイサービスセンター・ケアプランセンター・地域包括支援センター及び障害福祉サービスを提供する多機能型事業所の各施設を経営し、利用者・家族そして地域住民からの信頼と期待に応え、開かれた透明性のある法人を目指して事業運営を行ってまいりました。今年度も経営の健全化をはかるため、理事長・理事長職務代理者・課長職以上の職員による経営会議を会計事務所の指導を仰ぎながら毎月開催し、各施設の経営実態の把握と分析等を実施し、検討・協議を行ってきました。

平成28年度の事業活動実績は、法人全体でサービス活動収益1,182,173千円、前年対比99.6%で5,019千円、サービス活動増減差額は前年比62.4%の27,917千円で16,843千円それぞれ減収となりました。また、経常増減差額についても前年比72.7%の36,593千円で13,749千円の減収となりました。当期活動増減差額は36,585千円で前年比60.0%の24,366千円減となりました。

理事会では、法人の経営並びに各施設の業務執行等についての協議と決定を行いました。評議員会は理事会の前に開催し、執行する業務や地域福祉の推進について意見をいただき審議しました。理事会は1年間で7回開催し、評議員会は5回開催しました。議案は38件（理事会35件・評議員会7件）を提出し、主な議案審議は、事業計画及び収支予算・補正予算・事業報告並びに収支決算・定款の一部変更等規程等の改正・入札執行委任や人事案件等で、提出した全議案について原案どおり承認されました。

議案の内訳は、次のとおりです。

・人事案件	14件
・事業案件	11件
・予算・決算・補正予算案件	3件
・規程等（改正・設定）案件	10件

*法人並びに各施設の決算状況は、別紙のとおりです。

3. 役員等人事管理について

平成 28 年度の役員人事は、土門豊理事（月光園園長）が辞任され、後任として 6 月に菅原聡氏が理事（月光園園長）に就任されました。8 月の役員改選にあたり高橋敏夫理事が退任され、新たに伊藤宏紀理事が就任されました。

また、理事の互選により、今野熊治郎理事が理事長に再任され、理事長職務代理者には菅原聡理事が指名されました。

評議員については、7 月の改選により高橋幸紀評議員（遊佐町社会福祉協議会常務理事兼事務局長）と高橋石雄評議員（遊佐町老人クラブ連合会会長）が退任され本間康弘氏（遊佐町社会福祉協議会常務理事兼事務局長）と齊藤清氏（遊佐町老人クラブ連合会会長）が就任されました。社会福祉法の改正による社会福祉法人の制度改正により現行評議員の任期は平成 29 年 3 月 31 日までとなりました。

職員採用については、正規職員 10 名を新規採用したほか臨時職員から正規職員へ 3 名の職員を登用しました。

職員の人材育成については、職種ごとの現任者研修、全国、地区、県規模の研修に派遣並びに内部研修を実施したほか、資格取得研修への派遣を行いました。

4. 苦情処理関係について

社会福祉法第 82 条の規定に基づき、5 名の第三者委員で構成する「苦情処理委員会」を設置しております。毎年委員会を開催し、委員には各施設の状況報告等を行い、また、施設行事にも参加をしていただいたほか、利用者・家族等への PR を行って苦情解決に対応するなど苦情解決の知識・技術の向上を図っていただきました。

今年度も家族等の方が多く参加する行事に併せて相談日を設け、気軽に申し出ができるようにしました。

月光園・ゆうすい・あいあい・ゆうとびい・にしだてに於いて年間 17 回の「苦情相談日」を開催いたしました。その苦情申出・受付状況は次のとおりとなっております。

平成28年度 苦情申出・受付状況

相談事項	月光園	ゆうすい等	ゆうとぴい	にしだて
介護に関するもの	1	2	0	2
看護に関するもの	0	0	0	0
金銭に関するもの	0	0	0	0
利用者同志に関するもの	0	0	0	0
施設サービスに関するもの	2	3	0	1
その他	3	1	1	0
計	6	6	1	3
申出利用者数	4	5	1	3

5. 情報開示について

社会福祉法第44条の規定に基づき、「法人の会計書類の開示要綱」を策定し、請求があった場合は、各施設においていつでも閲覧できるようにしております。

なお、法人ホームページ及び各施設の広報に決算等の概要を掲載し、全国社会福祉法人経営者協議会のホームページにも財務諸表等の情報開示を行っており、透明性・信頼性に応えるよう努めてきました。

社会福祉法の改正により、事業運営の透明性の向上が求められているところから対外的な情報開示に適切に対応していきます。

平成28年度 障がい者施設事業報告

経営の概要について

月光園における平成28年度の入所利用状況は、6名の方が退所し4名の方が入所しました。体調を崩し長期にわたる入院者が多くなったことや、新規入所者が決定するまで期間を要したことなどから空床が多くなり、年間稼働率が95.3%と前年より2.0%低下、延べ利用者数は736名減少しました。一方、短期入所では年間稼働率109.9%と前年より9.7%上昇し、延べ利用者数は171名の増加となりました。

相談支援センターにおいては、相談支援専門員2名体制として2年目で、相談件数は831件で大きく実績を伸ばした前年度実績よりもさらに164件の増となりました。サービス等利用計画作成件数については51件と前年度より37件減となりました。行政・医療機関・サービス事業所等と連携して地域での生活の定着や障害福祉サービスの利用ができるように相談支援を行っています。

ゆうとぴいにおいては、多機能型事業所に移行してから2年が経過しました。今年度の稼働状況を見ると、生活介護は定員14名に対し登録人数は12名で稼働率は68.8%、前年度に比較して10.2%の増、生活訓練は定員6名に対し登録人数は3名で稼働率は32.3%、前年度に比較して4.8%の増という実績となりました。日中一時支援については、稼働率37.3%、前年度に比較し10.9%の減となりました。定員確保と利用にあたって体調変化等変動要因のある中で利用定着を図っていくことに引き続き取り組む必要があります。

障がい者施設拠点区分の事業活動収支計算書による決算額は、個々のサービス区分にそれぞれ増加や減少があったものの、全体としてはサービス活動収益が前年比101.0%で480,419千円(4,560千円増)となりました。サービス活動増減差額は前年比122.3%で31,971千円(5,827千円増)、経常増減差額においても前年比124.7%で36,397千円(7,205千円増)、よって当期の業績を表す当期活動増減差額は、前年比116.9%で42,291千円(6,108千円増)という結果となりました。

月光園では、設備等については計画的に修繕・更新等を行っております。今年度は南側避難所改修及び職員駐車場舗装・階段修繕、計画的に更新している3モーターベッド5台の入れ替えと緊急に制度化された補助金を活用しての施設内監視カメラ5台とモニター設置を行い、利用者の安心・安全・快適な生活環境の整備と職員の勤務環境に配慮した設備を行いました。

障がい者支援施設月光園事業報告

1. 利用状況について

(1) 利用者の利用状況

- ・施設入所は定員 75 名に対して、一日の平均利用者は 73.4 名、年間延べ利用者数は 26,790 名で稼働率は 97.9%でした。また、施設入所利用者数 77 名に対しての稼働率は 95.3%でした。
- ・短期入所は定員 5 名、一日の平均利用者は 5.5 名、年間延べ利用者数は 2,005 名で稼働率は 109.9%でした。

(2) 利用者の移動状況

- ・新規利用者 4 名(在宅 1 名・施設 1 名・病院 2 名)、退所者 6 名(入院 6 名)の移動がありました。

2. 生活支援について

- ・個々の持つ特性や心身の状況に合わせた個別ケアを提供し、その人らしく生活できるよう支援に努めました。
- ・外出支援、行事開催、サークル活動等を積極的に行い、単調になりがちな施設生活にメリハリのあるよう心がけました。
- ・利用者が安心安全に暮していただけるよう、「ひやり・はっと」の検証や事故防止、虐待防止に努めました。

3. 医療と健康管理について

- ・インフルエンザの罹患やノロウイルス感染者の発生はありませんでしたが、10月上旬より施設内に風邪症状の感染症が拡大し、延べ 49 名が罹患、13 名の方が入院するという結果となりました。これを受けて、感染症対策委員会を新たに設置し、嘱託医の指示のもと感染症の予防と拡大防止を図っています。
- ・利用者の高齢化・重度化が進む中、日々の状態観察を細やかにを行い、病状や体調の変化を的確に把握し早期発見・早期治療に努めました。
- ・衛生委員会活動を充実させ、職員のメンタルヘルスケア、腰痛予防対策など、産業医と連携を図りながら健康増進に努めました。
- ・医療における「ひやり・はっと」を検証し、原因究明・再発防止に努めました。

4. 栄養管理と給食について

- ・食事満足度調査を行い、利用者の嗜好にあった食事の提供に努めました。
- ・嚥下機能、咀嚼機能が低下した方でも安心して食事ができるよう、専門医の指示を受け、個々の機能に合わせた食事の提供に努めました。
- ・他職種と連携を図りながらアセスメントを行い、栄養支援計画に基づいた食生活のサポートに努めました。

5. リハビリ活動について

- ・利用者のニーズに合わせたプログラムを提供し、身体機能や活動意欲を引き出すことに努め、リハビリ参加率を伸ばすことができました。
- ・居室内で過ごすことが多い方には、フェイスマッサージや発語などの口腔トレーニングも積極的に実施し、車椅子への離床時間も随時見直すことができました。
- ・短期入所の利用者には、自宅における生活の安全性を高めるため、日常生活動作についての相談や確認、自主的に行えるトレーニングを提案する時間を個別に設けることができました。
- ・季節や行事に合わせて変化に富んだ様々な活動を、利用者と協力して取り組むことができ、多くの作品を掲示することができました。

6. 職員研修について

- ・職場内外の研修の充実を図り、職員自身が専門職として自覚をもち、知識や技術を学び実践していくことで、サービスの向上につながるよう努めました。
- ・嘱託医を講師として感染症についての内部研修を2回開催し、感染症の理解と、風邪引き者がまん延した際の対応について正しい知識を習得することができました。また、感染症予防対策委員会を立ち上げるきっかけとなりました。

7. 家族・地域との連携について

- ・家族交流の日には多くのご家族の参加をハガキで呼びかけるなど、家族が利用者と過ごす時間を大切にさせていただけるよう心がけました。
- ・ボランティアの方々との交流の場としてボランティア懇談会などで、行事や教室活動への参加や協力を呼びかけました。
- ・遊佐厚生会ホームページではわかりやすく見やすい情報の発信を心がけました。月光園だよりでは行事や事業の取り組み、利用者の様子等を地域の皆さんにも紹介しています。

8. 災害防止活動について

- ・定期的に避難訓練・通報訓練及び防災設備器具の安全点検を行い、利用者と施設の安全確保に努めました。
- ・近隣地区住民と広域消防署の方々が参加した総合避難訓練を実施し、災害時に備えた協力体制を築くとともに、個々の防災意識を高めることができました。
- ・携帯電話通信網システム3台と防犯カメラ5台を設置し、利用者、家族、職員にも安心できる施設づくりを目指しました。

9. 短期利用サービスについて

- ・事前面談では利用日数や生活様式、居室環境等の希望をできるだけ取り入れ、より家庭での日常に近いサービスの提供を心がけました。
- ・利用者本人・ご家族とのコミュニケーションを大切にし、楽しく安心して定期的に利用していただけるよう、きめ細やかな支援に努めました。
- ・各事業所や地域の関係者、相談支援専門員と情報を共有し、相互の連携を図りながら新しい利用者の確保に努めました。

障がい者相談支援センター月光園事業報告

1. 一般相談支援事業について

- ・利用地域での生活が定着できるよう、医療機関、各サービス事業所、近所の方、関係機関と連携を図りながら、安心した生活が継続できるよう支援しました。

2. 特定相談支援事業について

- ・卒業後、児童から障がい者へ移行の方々には、サービス内容等情報提供を行い、不安のないスムーズに切り替えが行えるよう心がけました。
- ・急な相談に対しても迅速な対応で、関係機関と連携を図りながら障害福祉サービスが利用できるよう支援しました。

3. 研修等について

- ・酒田市、遊佐町の地域自立支援協議会には定期的に参加し、相談に関わる研修にも積極的に参加しスキルアップを図りました。
- ・地域の方々が気軽に立ち寄れる場所として『カフェ おんりー・わん』を開催し、相談支援センターの周知にも努めることができました。

平成 28 年度 障がい者支援施設月光園利用者の状況

1. 市町村別状況

	鶴岡市	酒田市	遊佐町	庄内町	三川町	計
男	20	10	3	4	0	37
女	13	15	8	1	1	38
計	33	25	11	5	1	75

2. 入退所状況

入 所		自宅	他の施設	病院	その他	計
	男	1	1	2	0	4
	女	0	0	0	0	0
	計	1	1	2	0	4
退 所		自宅	他の施設	入院治療	死亡	計
	男	0	0	6	0	6
	女	0	0	0	0	0
	計	0	0	6	0	6

3. 年齢別利用者数

	～19歳	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70歳以上	計
男	0	1	1	6	8	18	3	37
女	0	0	1	3	8	18	8	38
計	0	1	2	9	16	36	11	75
平均年齢 60.8歳 最高齢 94歳 最年少 29歳								

4. 外出・外泊状況(延人数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
外出	21	26	54	24	19	21	30	3	5	3	8	9	223
外泊	2	4	1	1	6	2	2	0	2	2	0	0	22

5. 面会状況(延人数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
回数	100	58	62	104	61	57	102	47	50	57	43	57	798
人数	150	85	96	175	101	82	157	73	76	93	68	110	1266

6. 主たる障害原因

	脳性麻痺	脳血管疾患	脊髄損傷	視力障害	難病	その他	計
男	6	11	2	1	6	11	37
女	15	10	0	0	4	9	38
計	21	21	2	1	10	20	75

7. リハビリ実施（延人数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利用者人数	4650	4432	5173	4543	5022	4621	3592	1439	2587	3105	2720	4045	45929

8. リハビリ項目別（延人数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
機能訓練	1819	1753	2023	1769	1947	1776	1376	588	1064	1270	1156	1632	18173
手指訓練	274	218	289	232	261	242	205	84	108	92	158	168	2331
言語訓練	252	279	261	229	322	275	200	136	172	231	115	338	2810
関節可動域	692	685	732	640	724	666	525	346	460	457	288	428	6643
音楽療法	527	491	685	632	653	615	518	33	278	419	439	706	5996
ADL拡大	649	605	695	600	674	616	468	176	344	443	385	571	6226
レク療法	132	143	164	179	145	147	88	13	44	31	43	29	1158
運動療法	156	126	163	115	153	144	100	38	68	85	65	87	1300
物理療法	119	119	159	144	140	131	111	25	49	77	70	85	1229
自然療法	30	13	2	3	3	9	1	0	0	0	1	1	63

9. 施設内診療状況（延人数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
内科回診	54	64	65	77	70	45	94	130	114	60	43	60	876
精神科回診	26	27	28	27	27	25	25	25	29	28	25	26	318
歯科往診	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
皮膚科往診	0	0	0	0	6	13	3	0	3	0	0	3	28
嚥下往診	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	5
注射・点滴	72	62	59	65	78	48	77	25	131	61	57	70	805
褥瘡処置	30	18	29	31	31	31	31	31	31	31	62	62	418
瘡処置	389	418	368	392	418	369	337	296	352	395	359	426	4519
軟膏処置	585	580	607	610	616	615	606	536	534	621	601	587	7098
疼痛	28	18	29	19	21	22	32	24	33	29	43	29	327
点眼	433	417	379	441	362	393	417	316	297	313	283	329	4380
膀胱洗浄	125	145	136	138	129	120	93	57	55	65	64	63	1190
浣腸60ml	50	53	52	66	41	48	56	44	35	46	47	51	589
排便坐薬	213	205	183	206	208	212	198	177	192	193	176	198	2361
採尿	76	0	0	0	0	0	77	0	0	0	0	0	153
採血	76	9	3	9	4	9	77	9	3	9	3	9	220
導尿	15	2	2	0	1	2	1	3	3	0	2	7	38
経管栄養	1205	1244	1175	1230	1250	1190	1045	785	1018	1259	1186	1303	13890
留置カテーテル	302	308	289	281	297	336	310	228	229	281	279	306	3446
気切処置	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
吸引	809	977	1040	991	830	974	828	858	1460	1321	1214	1414	12716

10. 入院状況（延人数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
日本海総合病院	38	16	40	69	56	20	73	155	69	45	40	75	696
庄内余目病院	10	0	0	0	0	0	37	114	26	0	0	0	187
その他	0	20	0	0	8	30	19	7	55	45	0	0	184
計	48	36	40	69	64	50	129	276	150	90	40	75	1067

11. 通院状況（延人数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
遊佐病院	1	6	3	2	5	4	2	5	4	1	5	6	44
日本海総合病院	10	10	12	4	15	13	13	15	11	8	6	10	127
大滝歯科医院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	6
庄内余目病院	1	3	0	2	2	1	3	2	2	5	1	2	24
その他	1	0	4	3	2	4	6	7	3	2	1	3	36
計	13	19	19	11	24	22	24	29	20	16	16	24	237

12. 障害支援区分状況（3月末現在）

	障害支援区分					平均障害支援区分
	3	4	5	6	計	
男	1	5	9	22	37	5.4
女	0	4	7	27	38	5.6
計	1	9	16	49	75	5.5

13. 短期入所利用状況（延人数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
延べ人数	39	47	46	44	44	43	45	13	33	42	38	42	476
延べ日数	152	191	200	196	208	181	187	74	137	160	155	164	2005
稼働率(%)	101.3	123.2	133.3	126.5	134.2	120.7	120.6	49.3	88.4	103.2	110.7	105.8	109.9

平成28年度 障がい者相談支援センター相談件数等の状況

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
作成件数	8	5	1	7	6	1	2	7	2	8	3	1	51
モニタリング件数	5	8	22	13	5	20	18	7	6	10	6	5	125
相談回数	79	63	67	87	58	61	85	51	55	70	74	81	831
前年度作成件数	6	3	2	10	5	9	28	9	7	6	3	1	89
前年度モニタリング件数	9	4	17	13	2	10	7	3	6	11	5	8	95
前年度相談回数	40	41	47	61	57	70	48	54	54	56	75	64	667

平成28年度 防災活動報告

月 日	訓練名称	訓練内容
4月14日	職員避難訓練 (手順訓練)	5人一組で4回の訓練を行う。 南棟娯楽室からの出火想定 終了後ポータブル発電機始動操作訓練 同日、第一回防災会議開催
4月26日	職員通報訓練	119番通報による災害時連絡網、火災一斉メールを使用した通報訓練
5月12日	地震時通報避難訓練 昼間時想定 (消火器訓練) ※消防署立ち会い	昼間時、吹浦沖10kmでM6の地震発生想定 建物被害、停電、断水、けが人設定、安否確認メール送信 班別の役割分担にてそれぞれの動きを経験することが目的 消火器訓練 非常発電機起動訓練 同日、第二回防災会議開催
6月20日	総合避難訓練 打合せ	総合避難訓練事前打合せ会 総合避難訓練の実施内容、施設情報を共有することが目的 参加者：遊佐分署 近隣地区区長 役場危機管理係 消防団及び第三分団 荘内防災(株)
6月26日	総合避難訓練 夜間時想定 (消火器訓練) ※消防署立ち会い	南棟娯楽室出火想定 遊佐分署指導による消火器訓練、その後非常用発電機始動操作訓練。 参加者：職員50名 消防団第三分団30名(防御訓練を兼ねた協力) 同日、防災対策協議会開催
9月6日	職員避難訓練 (手順訓練)	5人一組で3回の訓練を行う。*9月1日防災食提供 南棟娯楽室からの出火想定 終了後ポータブル発電機始動操作訓練 同日、第三回防災会議開催
9月21日	職員通報訓練及び 避難訓練 (夜間実施)	南棟娯楽室からの出火想定 火災メールにて駆けつけ実際の暗闇の中での避難を行う。職員のみ参加 実際駆けつける時間のデータ取り。
11月10日	職員避難訓練 (手順訓練)	5人一組で4回の訓練を行う 南棟娯楽室からの出火想定 同日、第四回防災会議開催
1月24日	職員通報訓練	119番通報による災害時連絡網、火災一斉メールを使用した通報訓練
2月9日	職員避難訓練 (手順訓練)	5人一組で3回の訓練を行う 南棟娯楽室からの出火想定 非常発電機起動訓練 同日、第五回防災会議開催
3月9日	地震時通報避難訓練 昼間時想定	昼間時、吹浦沖10kmでM6の地震発生想定 *3月11日防災食提供 建物被害、停電、断水、けが人設定、安否確認メール送信 情報を極力伏せ班別の役割分担にてそれぞれの動きを経験することが 目的、その後非常発電機起動訓練

平成28年度 多機能型事業所ゆうとぴい事業報告

多機能型事業所（生活介護・生活訓練）は、定員20名に対し利用者の登録は15名（生活介護12名・生活訓練3名）であり、1日の利用平均人数は、11.5名（生活介護が9.6名・生活訓練は1.9名）でした。また、日中一時支援事業所においては、定員4名に対し利用者登録は4名であり1日の利用平均人数は1.5名でした。

生活介護は少しずつ利用者が増えてきています。しかし、自立訓練（生活訓練）は、標準利用期間が2年となっており、さらには、支援区分によっては、生活介護が利用できないこともあります。現在の利用者が継続して当事業所を利用出来るよう、就労支援も検討課題となっていますが、就労支援の報酬や、職員配置についてゆうとぴいの事業所規模で実施するにあたっては充分検討する必要があります。また、利用者の状況を見ると、施設を利用できる障害支援区分に該当しない方や高齢化や重度化に伴い、体調不良を訴える等で休む方が増えてきている状況から、何らかの対策が必要となっています。

事業においては、個別支援計画に基づき、運動やストレッチなどの実施を通して、個人の能力や特性を生かして安全面、健康面を考慮し支援を行いました。共同で施設の清掃作業、料理作り、自然散策に出かけ、同じ作業を通して家族とのつながりを深めました。依頼品の製作や紙芝居訪問などを通して、地域と交流することで、利用者に積極性が生まれ、やり甲斐の一つになっています。園芸作業においては、プランターなどに色々な野菜を植え、椎茸の収穫などを通じて喜びを分かち合いました。今年は地域の方々（保育園児など）との収穫祭はできませんでしたので、次年度には実施したいと思います。

今後の利用者獲得のために、送迎範囲の拡大や入浴設備の充実などの検討も必要であり、そのために部屋の整備や配車、人員配置が課題になります。次年度は利用者の増が予定されていますが、更なる利用者の獲得に向けて職員一丸となって進めてまいります。

○市町村別利用者状況

	遊佐町	酒田市	鶴岡市	合計
男	11	1	0	12
女	7	0	0	7
合計	18	1	0	19

○年齢別利用者数

	~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~	合計
男	1	2	5	3	1	0	0	12
女	1	0	1	2	1	1	1	7
合計	2	2	6	5	2	1	1	19
平均年齢 40.7 歳		最高齢 79 歳			最年少 19 歳			

○障害支援区分別状況

性別	区分	障 害 支 援 区 分							
		※平均 3.1 (生活介護 : 3.7 生活訓練 : 1.7 : 日中一時支援 : 2.3)							
		未登録	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	計
男		0	2	1	5	4	0	0	12
女		0	1	2	1	1	1	1	7
計		0	3	3	6	5	1	1	19

○日中一時支援利用状況・・・利用者 4 名、延べ利用日数 358 日

○防災活動

月 日	活 動 内 容	備 考
4 月 25 日 (月)	避難誘導及び機器使用手順確認	職員のみ
7 月 5 日 (火)	火災時における避難訓練	避難誘導訓練
11 月 14 日 (月)	地震時における避難訓練	避難誘導訓練

○ボランティア受け入れ状況 (団体・個人)

(敬称略)

NO	ボランティア名	期 日	活 動 内 容	人 数
1	佐藤 繁子	随 時	縫い物・話し相手・見守り等	
2	高橋 千栄子	随 時	縫い物・話し相手・見守り等	
3	荒木 守	随 時	草むしり・話し相手など	
4	後藤 弘実	随 時	紙芝居	
5	今野 三和子	随 時	紙芝居	
6	高橋 まり子 工藤 久美子	12 月 15 日 (月 1 回程度)	クリスマス会行事	
7	町手をつなぐ親の会	11 月 4 日	窓拭き・草むしり奉仕など	3
8	民生児童委員	7 月 12 日	草むしり奉仕など	5
9	利用者家族	4 月より随時	草むしり・窓掃除 ひな壇飾り付け・畑など	

○実習生受け入れ状況 (職員体験実習含む)

NO	実習団体名	期 日	実 習 内 容	人 数
1	酒田特別支援学校	6 月 20 日 ~7 月 1 日	体 験 実 習	2
		11 月 9 日 ~ 11 日	体 験 実 習	2
		11 月 21 日~12 月 2 日	体 験 実 習	2
		12 月 6 日 ~8 日	体 験 実 習	1

平成 28 年度 ゆうすい等事業報告

経営の概要について

平成 28 年度、ゆうすいの入所状況は、3 月末で利用者数 80 名（男性 17 名・女性 63 名）、市町村別では、遊佐町 74 名、酒田市 5 名、鶴岡市 1 名となっています。全体での平均年齢 85.8 歳、平均介護度 4.1 はいずれも前年度より若干上がって来ており、要介護 5 の方は 48%、3 以上で見ると 94%を占める割合に昇っています。背景には要介護 3 以上の入所を指針とした前年度の改正があり、年間退所者 19 名の在籍期間が 3 年 4 ヶ月と短くなっていることから入所対象者の重度化がうかがえます。入院先での死亡は 5 名、長期入院による退所は 7 名でした。また、施設で亡くなった 7 名のうち 5 名の方に看取り介護を実施しました。年間稼働率は空床日数の倍増により 97.4%と前年比 0.8%減の結果でした。

短期入所は既存棟利用者が伸び悩み、前年を 3.5%下回る 72.3%の年間稼働率でした。男性利用者が増えている中、既存棟多床室（2 人部屋）における男女別利用の調整が課題となっています。

デイサービスセンターは、定員 35 名のところ、1 日平均利用者数 27.7 名と利用者減少傾向が続いています。新規に認知症加算へ取り組み、通年の算定とはなりませんでしたが認知症研修履修者を増員するなど認知症ケア向上に努めました。年間稼働率は 79.1%と前年比 3.4%の減でした。

ケアプランセンターは、常勤換算 2.75 名体制で運営してきました。常勤 3 名に満たないため今年度は特定事業所加算を得ることができず、この部分で 3,000 千円程度の減収となっています。

地域包括支援センターについても町の保健師が今年度から派遣されないことになり、内部からの人員補充も困難だったため 3 名体制での運営となりました。次年度から本格的にスタートする「介護予防・日常生活支援総合事業」に向け、専門職による体制強化が必須です。

このように、今年度は人員や専門職の不足が経営に大きく影響したと言えます。法人全体での計画的な職員採用や人材育成が経営上ますます重要になると思われます。

以上の事業により今年度のゆうすい全体の実績を事業活動計算書でみると、サービス活動収益は 519,974 千円で前年比 97.9%の 11,186 千円の減少、サービス活動増減差額は、3,405 千円で前年比のわずか 12.5%と 23,893 千円を減ずる結果でした。経常増減差額も 7,551 千円で前年比 26.8%の 20,642 千円減でした。

施設整備では、18 年を経て緊急度合いの高い非常用放送設備、ナースコール設備を更新し、不審者対策としての防犯用カメラ及びセンサーライトを設置しました。また、次年度に予定されているボイラー設備更新工事に向けた環境省の補助金事業に組み込み、前段の調査事業を完了しました。

1. 経営力の向上について

- ・ 人材不足によって取得できなかった入所系及び通所系の「個別機能訓練加算」、居宅介護支援事業の「特定事業所加算」は、収入だけでなくサービスの質にも影響しており、人材確保へ向け法人全体で取り組んでいく必要があります。
- ・ 通所事業や短期入所事業など在宅サービス部門の稼働率が低迷しており、定員の見直しや居室の改修など抜本的な見直しを図っていかなければなりません。
- ・ 空調設備の全面電化後、初めての通年稼働でしたが、高効率設備により電気料は低く抑えられました。

2. 介護力の向上について

- ・ 認知症介護実践者及びリーダー研修、ユニットケアリーダー研修、テーナアドバイザーのサポートによる排泄ケアへの取り組みなどから、常に個別ケアを意識した介護を主体的に実践しようとする姿勢が育ってきました。
- ・ 介護職員全員が前年度に引き続き「業務手順書」の習得を個人目標に設定し、積極的に取り組みました。

3. 地域社会への貢献について

- ・ 「認知症サポーター養成講座」を含む「ゆうすい出張講座」は年間12ヶ所で開催されました。
- ・ 認知症地域支援推進員の活動とタイアップする形で認知症カフェ（「ゆうすいかフェ」）を8月からオープンしました。8回の開催で127名の利用者と認知症サポーター等のスタッフ65名の参加があり、認知症の人や家族の相談・交流の拠点づくりに貢献できました。

4. 明るく健康な職場づくりについて

- ・ 健康診断でのメンタルヘルスチェックが導入され、診断結果を踏まえた産業医との面談を実施し、必要に応じて主治医とも連携を取りながらメンタル不調者への対応に努めました。
- ・ フィデア総研のコンサルタント無料派遣事業を受け、人材育成につながる人事制度のあり方について中堅職員が話し合える機会を持つことができました。

5. 危機管理体制の強化について

- ・ BCP(事業継続計画)を完成させることができ、今後は実践訓練で検証をして行く必要があります。この他、不審者に係る防犯マニュアル、風水害のマニュアルについても作成及び訓練の実施が求められるようになりました。
- ・ 継続して行っている「職場安全パトロール」では、建物の破損や亀裂のチェックが行われました。

6. 透明性、信頼性の確保について

- ・ 利用者や外部の苦情受付だけでなく、派遣職員や業務委託職員の声を聴く機会を設け、多様な働き手が居て成り立つ現場において風通しの良い環境づくりに努めました。
- ・ ホームページを充実させることで、今年度から「広報ゆうすい」を年1回発行としましたが、定期的なホームページ更新に至らず、魅力ある情報発信を行うことができませんでした。

特別養護老人ホームゆうすい事業報告

1. 生活支援について

- ・ 生活の中で季節を感じられるように畑づくり等に計画的に取り組みました。春の種まき、畑の手入れ、秋の収穫、旬の野菜の調理まで役割を持って関わることで喜びを感じていただくことができました。
- ・ グループ会議等で「ひやり・はっと」報告の振り返りを行ない、事故防止対策に取り組みました。介護事故及び「ひやり・はっと」報告件数は昨年より8件増となっています。事故内容は転倒・転落が多く、発生時期は秋から冬にかけて増加傾向にありました。
- ・ 介護と看護が連携し研修を行いながら、より専門的な知識、技術の向上を図りました。看取りケアも積極的に取り組み、家族・関連職種と情報共有を行ないながら最後まで自分らしく過ごしていただけるように心がけ、5名の方の看取りを実施しました。
- ・ 施設内の整理整頓、居室の清潔保持を心がけ、物品の適正な使用と管理に努めました。

2. 食事サービスについて

- ・ 給食委員会の意見や嗜好調査の結果を反映し、行事食の他に、各部署希望献立を取り入れ、より、利用者の方に満足していただける食事の提供に努めました。
- ・ グループ毎に、定期的に料理サークルを行い、季節の食材を使った郷土食や、おやつなどを作り、楽しむことができました。
- ・ 食事形態の個別化の徹底や、ソフト食の最適な固さを医師に判断してもらう等、安全な食事提供に取り組みました。
- ・ 食が進まない方や疾病のある方に向けて、介護や看護と連携し、食事形態の変更や量の調整、補食の追加等の対応を行い、改善に結びつけることができました。

3. 健康管理について

- ・ 年々利用者の要介護度が上がるにつれ身体機能、体力の低下、医療への依存度が高くなっています。内外の研修で知識・技術を習得し看護と介護の協力連携により統一したケアの提供に努めました。
- ・ 今年度も全職員を対象に感染症予防実技研修を実施し習得に努めました。ノロウイルス感染の発生はありませんでしたが、インフルエンザ罹患者は、職員や職員家族、利用者家族に発生がみられ、施設内で利用者1名の発症がありました。施設内感染対策マニュアルに沿って段階別の対応を徹底し、拡大を最小限に防ぐことができました。
- ・ 施設で看取られる方も多くなり、今年度は看取りマニュアルの見直しを法人施設間で統一して行い、家族・関連職種と情報共有しながら、利用者の尊厳重視と最後まで自分らしく過ごしていただけるようニーズに合った対応に努めました。

4. リハビリテーションについて

- ・ 生活の中で出来ること出来ないことを見極め、機能低下を予防するために、見守りを大切に關わりました。
- ・ 利用者の介護度が高くなり、ベッド上での生活になる人が増えてきました。適時の体位変換や適正な枕、クッション、マットレスの選択をサポートすることで、褥瘡の発生を最小限に抑えました。
- ・ 理学療法士による訪問指導を継続的に実施し、個々の能力に合わせ、自立した生活が送れるよう支援しました。

5. 短期入所サービスについて

- ・ 家族、医療機関との連携をとりながら、緊急時の速やかな対応・調整に努めました。年末からインフルエンザ罹患者が発生しましたが、施設内感染対策マニュアルに沿って段階別の対応を実施し、拡大防止に努めました。
- ・ 新規面談・サービス担当者会議等からの利用者情報を共有し、サービス提供が円滑に行われるように取り組みました。
- ・ 個々の利用者にあった居室環境の整備に努めました。既存棟では男性利用者が増え、二人部屋における男女別利用の調整がうまくいかず、今後の課題となっています。利用期間中は、軽体操・余暇活動を行い楽しみながら利用していただけるように取り組みました。

デイサービスセンターあいあい事業報告

1. 基本的サービスについて

- ・ 利用者、家族及び関係職種と情報を共有し、いきいきと楽しく過ごせる活動の場・交流の場としての提供ができました。
- ・ 施設内の整理整頓・環境美化に取り組み皆さんが寛げる空間作りに努めました。
- ・ 業務手順書に沿った介護支援に取り組み、介護事故、「ひやり・はっと」の削減に努めました。
- ・ 介護知識・介護技術の向上を意識した研修へ積極的に参加して研鑽に努めました。

2. 食事サービスについて

- ・ 個々の要望や制限事由にも対応を徹底し、安全でおいしい食事を提供できました。
- ・ 嗜好調査を行い、その結果を反映させた献立作成に努めました。季節の食材を使った献立や行事食、郷土食の他に、希望献立を実施し、より満足していただける食事提供に努めました。
- ・ 毎回食事前には口腔体操を実施することで、食欲の増進・摂食機能の維持に努めました。

3. 健康管理について

- ・ 今年度実施した感染源の汚物処理実技研修で学んだ処理技術、予防対策に沿って適切な対応ができたことで、感染症が広まること無く済みました。
- ・ 重度化する利用者へ対応するため、看護師と連携し医療に関する知識の向上に努めました。
- ・ 家族、医療機関と連絡を取りながら口腔ケア実施に取り組みました。

4. リハビリテーションについて

- ・ 利用者が求めるリハビリと、本人の身体機能維持向上に必要なメニューの提供等、在宅でも取り組めるように支援しました。

5. レクリエーション、余暇活動について

- ・ 身体や頭脳に刺激ある様々なレクリエーションや季節行事、四季折々の外出等を取り入れ、利用者間の繋がりや交流を意識した余暇活動に努めました。

6. 介護予防について

- ・ 運動機能向上については、個々に合った運動トレーニングを実施・評価・見直し・継続と計画的に行い、重度化防止に努めました。
- ・ 遊佐町介護予防事業「いきいき教室」を受託し、3クール(1クール12回開催)の実施で394人が参加しました。利用者も前年度より減少しましたが、参加された方からは「介護予防の大切さを学んで良かった」という感想をいただいています。

7. 防災について

- ・ 災害を想定した防災訓練に利用者・職員が参加し、防災に対する危機管理意識の向上に努めました。

8. 地域とのつながりについて

- ・ 地域ケア会議に参加するなど、地域の情報交換には積極的に参加しました。
- ・ 地域の健康教室へ「ゆうすい出張講座」の依頼を受け、あいあい職員が講師となって、ミュージックケア、介護予防運動を実施し、地域とのつながりと社会貢献に努めました。

ケアプランセンターゆうすい事業報告

1. ケアプラン作成について

- ・ 一人ひとりの「自立支援」に向けたケアプラン作成を行っています。本人・家族の思いや要望等を傾聴した上で、課題分析をおこない、必要なサービス利用を提案しました。
- ・ わかりやすい言葉での説明を行い、視覚的にも確認できる資料などを利用して情報提供に努めました。
- ・ 独居、老老介護、認知症、経済的問題など様々な問題を抱えるケースが増えていますが、主任介護支援専門員もおり、いつでも相談できる体制を整えて対応してきました。

2. 他機関との連携について

- ・ サービス利用に当たり、本人・家族・関係事業所との連絡を密にし、情報の共有を図り、状況に変化があった場合は速やかに相談・対応を行いました。
- ・ 医療依存度の高い方や、延命治療を希望されないケースも増えてきています。主治医・病院・訪問看護など医療機関との連携もより重要なものになっています。町内の医療機関の利用だけでは対応できないこともあり、安心して暮らせる地域づくりに今後の大きな課題となっています。
- ・ 在宅での生活を維持・継続するために介護保険では支えきれない部分も多く、民生委員や近隣住民の方々からの協力もお願いしてきました。行政・民生委員・近隣との連携を図っています。

3. 研修について

- ・ 多様化するケースに対応できるよう、他職種の研修会にも積極的に参加し、新しい知識の習得に努めました。研修で学んだ事は週1回の内部研修会で報告・伝達を実施し、職員全体のスキルアップを図ってきました。
- ・ 保険者によるケアプラン点検では、点検を受けた他の居宅支援事業所から情報をいただき、ケアプラン作成に生かす事ができました。

遊佐町地域包括支援センターゆうすい事業報告

1. 総合相談事業について

- ・ 総合相談事業として年間 4,370 件（前年 5,127 件）の相談・対応を行いました。精神疾患のある方からの相談が 78 件（前年 158 件）、支援困難相談 81 件（前年 170 件）でした。
- ・ 相談方法としては、訪問 1,177 件、電話 1,843 件、来所 684 件でした。

2. 権利擁護事業について

- ・ 地域で成年後見人として活動されている社会福祉士の方を講師に、一般町民を対象とした「成年後見制度」の介護講座を開催し、38名の参加がありました。また、高齢者虐待防止については、県で発行しているチラシを民生児童委員や関係機関に配布し、防止に向けての周知活動を行いました。通報・相談時はこれまで同様、行政や関係機関と連携し情報共有及び事実確認に努め対応しました。

3. 包括的・継続的ケアマネジメント事業について

- ・ ケアマネジャーや地域関係者から寄せられた情報・相談については、包括内で話し合いの場を持ち、支援困難事例は行政や関係機関につなぐなど速やかに対応していきました。
- ・ 65歳を迎えて、障がい者サービスから介護保険サービスに移行した人への対応にも取り組みました。今後も対象者の増加が見込まれます。

4. 介護予防ケアマネジメント事業について

- ・ 介護予防事業「いきいき教室」については、春・秋・冬コースの事業へ実人数 41 名、延べ 394 名(前年 425 名)の参加がありました。修了後の継続利用希望から介護認定申請へとつないだケースもありました。
- ・ 要支援認定のケアプランについては、包括支援センターで 587 件(前年 618 件)作成、9ヶ所の居宅介護支援事業所に 1,237 件(前年 1,343 件)業務委託を行いました。

町内居宅介護支援事業所のケアマネジャーの確保が難しく、委託件数が減った分については、包括支援センターでケアプラン作成を行いました。

- ・ 居宅要支援被保険者等への適切な支援を図る、必要な検討を行うため、自立支援型地域ケア会議に参加しました。
- #### 5. 認知症に関する事業について

- ・ 認知症地域支援推進員を中心に、認知症サポーター養成講座を年間 14 回開催、述べ 324 名の方が受講されました。今年度は小学生、中学生の受講生が多く、今後の課題としては、20 代から 40 代の受講が少ないこの年代層の受講促進が課題と思われます。
- ・ 認知症の人やその家族の相談、地域住民が気軽に交流できるゆうすいカフェにも協力しました。
- ・ 今年度の認知症講演会は、包括支援センターと山形県認知症相談支援、出張交流会の事業として開催しました。今回は介護体験者の講演を企画しました。
- ・ キャラバンメイトフォローアップ研修会を開催し、認サポ養成講座における現状や課題を共通認識として周知しました。

特別養護老人ホームゆうすい利用者の状況

1. 市町村別状況

	遊佐町	酒田市	鶴岡市	合計
男	16	1	0	17
女	58	4	1	63
合計	74	5	1	80

2. 入退所状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
新規入所者	既存	男	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2
		女	0	2	1	0	1	0	2	1	2	0	1	0	10
	ユニット	男	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	3
		女	0	0	0	1	0	1	0	0	1	1	0	0	4
	合計	0	2	2	1	3	1	2	1	1	4	1	1	1	19
退所者	既存	男	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	2
		女	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	0	10
	ユニット	男	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
		女	0	1	0	1	2	0	0	0	2	0	0	0	6
	合計	1	2	1	2	3	1	1	2	4	0	1	1	19	

3. 年齢別状況

		～64歳	～69歳	～79歳	～89歳	～99歳	～109歳	合計
既存棟	男	0	1	4	5	1	0	11
	女	1	0	3	19	16	0	39
ユニット棟	男	0	0	2	1	3	0	6
	女	0	1	1	12	10	0	24
合計		1	2	10	37	30	0	80
		平均年齢	85.8歳	最高齢	98歳	最年少	64歳	

4. 介護度別状況

		要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計	平均介護度
既存棟	男	0	1	2	2	6	11	4.2
	女	2	2	7	8	20	39	4.1
ユニット棟	男	0	0	1	2	3	6	4.3
	女	0	0	9	6	9	24	4.0
合計		2	3	19	18	38	80	4.1

5. 医療受診状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	通院	3	13	0	4	0	2	3	3	7	4	0	4	43
	入院	52	62	15	31	39	3	42	89	89	26	2	15	465
外科	通院	3	6	2	4	7	4	5	6	1	3	6	2	49
	入院	0	0	22	11	0	0	0	0	0	0	9	0	42
整形	通院	0	1	0	0	2	1	1	0	1	1	0	1	8
	入院	0	0	0	15	3	20	16	17	19	0	0	0	90
泌尿器	通院	4	4	4	4	5	5	4	5	4	4	4	4	51
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
脳外科	通院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20	0	20
眼科	通院	0	0	0	0	0	0	2	0	1	1	0	0	4
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歯科	通院	2	6	0	0	0	5	5	1	3	0	0	0	22
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
神経 内科	通院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
婦人科	通院	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
耳鼻科	通院	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
乳房 外来	通院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
皮膚科	通院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	3
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
月計	通院	13	30	6	12	14	17	20	17	17	13	12	13	184
	入院	52	62	37	57	42	23	58	106	108	26	31	15	617

※H27年度入院者数 417

※H26年度入院者数 597

※H25年度入院者数 948

6. 短期入所利用状況 (定員15名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用延べ人数	354	381	343	344	305	317	327	315	305	307	310	351	3,959
一日平均	11.8	12.3	11.4	11.1	9.8	10.6	10.5	10.5	9.8	9.9	10.7	11.3	10.8
稼働率(%)	78.7	81.9	76.2	74.0	65.6	70.4	70.3	70.0	65.6	66.0	73.8	75.5	72.3
前年度延べ人数計	373	335	297	320	374	356	289	362	355	336	374	389	4,160
〃 1日平均	12.4	10.8	9.9	10.3	12.1	11.9	9.3	12.1	11.5	10.8	12.9	12.5	11.4
〃 稼働率(%)	82.9	72.0	66.0	68.8	80.4	79.1	62.2	80.4	76.3	72.3	86.0	83.7	75.8

デイサービスセンターあいあい利用者の状況

1. 介護度別状況

		要支援1	要支援2	(小計)	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計	平均介護度
28年度	利用人数	13	18	31	46	19	14	7	1	118	1.8
	%	11.0	15.3	—	39.0	16.1	11.9	5.9	0.8	100.0	
前年度	利用人数	19	19	38	37	27	20	9	3	134	2.1
	%	14.2	14.2	—	27.6	20.2	14.9	6.7	2.2	100.1	

2. 年齢別状況

		～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～94	95～99	100～	合計
28年度	利用人数	0	1	3	8	28	38	32	7	1	118
	%	0.0	0.9	2.5	6.8	23.7	32.2	27.1	5.9	0.9	100.0
前年度	利用人数	0	2	4	10	29	45	34	8	2	134
	%	0.0	1.5	3.0	7.5	21.6	33.6	25.4	6.0	1.5	100.0

3. 地区別状況

	遊佐	吹浦	高瀬	稲川	蕨岡	西遊佐	合計
28年度	33	15	11	18	34	7	118
前年度	48	18	11	20	31	6	134

4. 月別利用状況

(定員35名)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
営業日数		30	31	30	31	31	30	31	30	30	28	28	31	361
延べ人数	介護保険	708	720	676	701	671	658	691	614	595	570	576	621	7,801
	介護予防	188	184	198	208	194	198	177	198	185	137	150	179	2,196
	計	896	904	874	909	865	856	868	812	780	707	726	800	9,997
1日平均		29.9	29.2	29.1	29.3	27.9	28.5	28.0	27.1	26.0	25.3	25.9	25.8	27.7
稼働率(%)		85.3	83.3	83.2	83.8	79.7	81.5	80.0	77.3	74.3	72.1	74.1	73.7	79.1
前年度延べ人数計		871	853	854	925	876	847	893	846	868	859	864	841	10,459
" 1日平均		29.0	27.5	28.5	29.8	28.3	28.2	28.8	28.2	28.9	30.7	29.8	29.1	28.9
" 稼働率(%)		83.0	78.6	81.3	85.3	80.7	80.7	82.3	80.6	82.7	87.7	85.1	83.2	82.5

ケアプランセンターゆうすい利用者の状況

1. ケアプラン作成件数

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
作成件数	97	95	92	93	91	93	94	89	94	94	91	89	1,112
うち新規	0	2	2	2	1	2	3	2	5	1	2	3	25
介護予防作成件数	15	15	16	16	15	16	16	15	15	15	14	18	186
総作成件数(予防1/2)	105	103	100	101	99	101	102	96	102	102	98	98	1,207
1人平均件数(ケアマネ3)	38.2	37.5	36.3	36.7	36.0	36.7	37.0	34.9	37.0	37.0	35.6	35.6	36.5
前年作成件数	100	100	98	104	106	103	109	109	109	107	106	103	1,254
〃 介護予防作成件数	24	22	22	22	19	19	20	19	16	15	14	15	227
〃 総作成件数(予防1/2)	112	111	109	115	116	113	119	119	117	115	113	111	1,368

2. 介護度別状況

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護 1	34	34	33	34	35	34	33	29	26	26	24	26	368
要介護 2	26	23	23	24	22	23	24	23	27	26	27	27	295
要介護 3	20	23	20	20	19	19	18	18	18	17	16	15	223
要介護 4	9	7	8	8	7	8	11	12	10	12	13	12	117
要介護 5	8	8	8	8	8	8	8	8	13	10	11	9	107
総人数	97	95	92	94	91	92	94	90	94	91	91	89	1,110
平均介護度	2.3	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.3	2.4	2.5	2.4	2.5	2.4	2.3

遊佐町地域包括支援センターゆうすい活動状況

1. 介護予防ケアプラン作成件数

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
作成件数	52	57	53	48	43	44	47	50	50	48	46	49	587
うち新規	1	4	2	0	0	1	3	4	2	1	1	3	22
委託件数	102	102	104	110	108	101	101	99	98	101	103	106	1,235
うち新規	4	3	4	8	2	8	2	3	6	6	3	4	53
合計	154	159	157	158	146	152	148	149	148	149	149	155	1,824
前年作成件数	47	49	51	52	56	54	52	52	49	51	52	53	618
〃 委託件数	123	121	120	116	112	109	111	112	105	104	104	106	1,343
合計	170	170	171	168	168	163	163	164	154	155	156	159	1,961

2. 月別相談件数

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
相談件数	421	359	398	356	390	398	311	345	369	327	313	383	4,370
前年相談件数	483	368	422	407	474	456	466	390	412	425	389	435	5,127

平成 28 年度防災活動報告

月 日	訓 練 内 容	設 備 点 検	会 議	備 考
4 月		火災一斉メールシステム		
5 月	発電機始動・接続訓練		防災委員会 11 日開催	管理棟
6 月	昼間避難訓練 24 日実施	火災一斉メールシステム	防災委員会 8 日開催	
7 月	無断外出者搜索訓練 20 日実施		防災委員会 15 日開催 法人全体防災会議 13 日開催	
8 月	夜間避難訓練 20 日実施	火災一斉メールシステム	防災委員会 10 日開催	
9 月	発電機始動・接続訓練 防災ネットワーク訓練 16 日実施	消防用設備保守点検 15・16 日実施	防災委員会 22 日開催	あいあい
10 月	地震想定避難訓練 26 日実施	火災一斉メールシステム 消防用設備保守点検 6 日実施	防災委員会 12 日開催 法人全体防災会議 6 日開催	
11 月	発電機始動・接続訓練			既存棟介護
12 月		火災一斉メールシステム	防災委員会 14 日開催	
1 月	発電機始動・接続訓練 11～29 日実施		防災委員会 11 日開催 法人全体防災会議 31 日開催 町福祉避難所研修会 23 日実施	ユニット棟介護
2 月	夜間想定避難訓練 14 日実施 地震想定避難訓練 15 日実施 防災ネットワーク訓練 15 日実施	火災一斉メールシステム	防災委員会 8 日開催	
3 月		火災一斉メールシステム 消防用設備保守点検 27・28 日実施	防災委員会 22 日開催	

平成28年度 にしだて事業報告

経営の概要について

平成28年度、にしだての入所状況は、3月末で入所者数29名(男8名・女21名)。平均年齢は86.1歳で、平均要介護度は3.8でした。今年度は入所者の施設内感染はありませんでしたが、12月に業務委託業者の職員がノロウイルスに感染しました。しかし、マニュアルにそって適切に対処した結果、感染拡大に至らず収束しました。

今年度は、長期入院等含め退所者が12名でした。入所の3月末までの平均稼働率は96.8%でした。入院等での空床は年間335床でした。また、短期入所の年間平均稼働率は81.0%で目標稼働率以上の実績を残しました。ケアプランセンターにしだての年間作成件数は、1,234件で新規件数は、39件で、介護予防受託件数は226件でした。予防も含めた総受託件数は1,349件でケアマネ1人平均が37.3件となりました。

以上の事業を実施した結果、今年度の全体の実績を事業活動計算書で見ると、サービス活動収益は前年比100.9%で181,780千円(1,607千円増)となりました。また、サービス活動増減差額は前年に比べ1,223千円増額となり△7,459千円でしたが、当期活動増減差額においては、512千円減少し△8,857千円となりました。

1. 経営力の向上について

- ・開所3年目、地域に支えられ、地域に寄り添い、地域を支える施設として地元の皆様にも地域密着型介護保険施設として親しまれ利用していただいたことが、短期入所の稼働率の引き上げにも繋がりました。これからも、制度の動向を見ながら経営に努めてまいります。
- ・入所については、担当職員が空床期間の解消に向け、早期入所等の取り組みに努めた結果、目標としていた稼働率をほぼ達成することが出来ました。引き続き地域の各機関、事業所に働きかけながら実績向上に結びつけていきたいと考えています。

2. 介護力の向上について

- ・介護マニュアル等の見直しを繰り返しながら、事故防止に努めました。
- ・業者等のアドバイザーを講師に招き、おむつ、尿とりパット等の使用にあたっての快適で効果的な取扱いについての学習等を開催しました。
- ・看取り介護について、ゆうすいの担当職員との勉強会や、嘱託医による講習会を行いました。

3. 地域社会への貢献について

- ・地域の各種行事への参加、町づくりセンター事業への参加、近隣の小学校等との交流を行い、地域福祉の拠点としての施設役割について住民理解に努めました。

- ・慰問、ボランティアを積極的に受け入れ、利用者、職員等の交流を行い、福祉施設との関わり方や今後の取り組みについて各種団体の皆様と意見交換を行いました。

4. 明るく健康な職場づくりについて

- ・全職員と個人面談を行い、職場での悩み、要望、健康診断の結果等含め、産業医と相談しながら解決や改善に努めました。

5. 危機管理体制の強化について

- ・町の補助事業で防犯カメラ 8 台設置しました。
- ・BCP（事業継続）について職員への周知を図りました。
- ・庄内地区特養防災ネットワーク防災訓練を実施しました。
- ・行政、近隣住民、家族会、地区消防団等と合同の総合避難訓練を行いました。訓練後、災害対策協議会を開催して災害時の連携についての話し合いを行いました。
- ・施設内の建物、敷地内等の危険箇所点検を毎月 1 回行いました。

6. 透明性、信頼性の確保について

- ・運営推進委員会を隔月で開催して各種委員からの要望等含め、改善に向けての話し合いを行いました。
- ・法令遵守について、研修会を開催し福祉施設職員や事業所に求められていることについて学習しました。

特別養護老人ホームにしだて事業報告

1. 生活支援について

- ・介護と看護双方から専門的視点で意見を出し合うことで、より深い知識、技術を習得し質の高い介護を行うことができるように努めました。
- ・「ひやり・はっと」の記録を徹底したことで振り返りを行うことができ、職員自らが考え、再発防止に努めることが出来ました。
- ・介護と看護が共同して、利用者個々の生活パターンや嗜好の調査を行い、一人ひとりに合ったサービス提供に努めました。
- ・利用者の余暇支援を充実させるため、地区内への散歩、毎月定例のボランティア受け入れを積極的に行いました。また、各ユニットに「おやつレク」として栄養士と相談員が月 1 回ずつ訪問し、利用者と一緒におやつ作りを行うことで楽しみを持って頂きました。また、ユニット内で季節の野菜等を使った料理を利用者と職員と一緒に作り食べたりすることで施設全体の状況把握を行うことが出来ました。
- ・職員で話し合いながら、効率的な使いやすい物品等の配置を検討しました。また、常に利用者、家族目線で環境整備や清潔保持を行うことを心がけました。

2. 食事サービスについて

- ・献立から季節を感じて頂けるように、普段の献立の中に旬の食材を取り入れ、季節に合わせた行事食を提供するように努めました。
- ・利用者の食事状況の観察を行い、食事の味付けや固さなどの意見を直接聞くように取り組みました。また、意見はその都度、厨房職員に伝え改善に努めました。
- ・介護と看護が連携し、利用者の食事の様子を見ながら食事形態・食事量や補食の検討等を適時行いました。
- ・定期的にユニット毎におやつ作りを行ないました。利用者と共に作業することで、できたての味だけではなく、できあがる過程も一緒に楽しむことができました。
- ・厨房での衛生管理は当然のこと、ユニット内での食材の保管や、提供された食事の保管状況等に注意を促し、食中毒防止に努めました。

3. 健康管理について

- ・利用者が身体的・精神的にも安心して生活ができるように、職員間で情報を共有し統一したケアを行うことができました。
- ・感染症に関しては、地域の状況や研修で情報を得て、保健衛生委員会で決定した事を職員に徹底し予防に努める事ができました。
- ・数名の方に看取り介護を行ないました。利用者の方に、最後まで自分らしく過ごしていただけるよう、家族の協力を得ながら、看取りカンファレンス等を行い、職員間で情報を共有して、より良い看取り介護を実践してきました。

4. リハビリテーションについて

- ・利用者の残存機能維持の為、日常生活の中で支援できるリハビリとして、トイレ移動時の立位保持や離床移乗の際のベッド端座位の確保、上下肢の屈伸運動、マッサージ等にも取り組みました。
- ・地域密着型ということで、外出や散歩の機会をもうけながら、近隣住民との交流を行うことが出来ました。
- ・理学療法士からの指導内容を、各ユニットスタッフが共有し、日常生活の中で実践することで利用者が安全に生活出来るように支援が出来ました。

5. 短期入所サービスについて

- ・利用者の方の状況やご家庭での生活に合わせて居室の環境を作り、利用の期間中、安心・安全に過ごして頂けるよう支援させて頂きました。
- ・サービス提供にあたって、利用前の面談を充実し、利用毎の報告を行いました。サービス担当者会議等において、担当者、家族との情報の共有に努めました。
- ・居宅介護支援事業所へ空き情報を伝え、稼働率の向上に努めました。

ケアプランセンターにしだて事業報告

1. ケアプラン作成について

- ・本人、ご家族の意向を確認し、アセスメントの充実を図り自立支援に向けたケアプラン作成を心掛けてきました。
- ・サービス内容等の説明をする際は、利用者・家族から理解していただけるように分かりやすく丁寧な説明に努めました。
- ・今年度は町のケアプラン点検があり指摘事項はありませんでした。今後も法令を順守してケアプラン作成を行っていきます。

2. 他機関との連携について

- ・行政・医療機関・サービス提供事業所との連絡を取り合い情報の共有に努めました。利用者が住み慣れた地域で暮らしていけるように、地域との結びつきを大切にし、インフォーマルな資源の活用も図りました。

3. 研修について

- ・ケアプラン会議を毎週1回開催しました。ケース会議や伝達研修等を通じて「にしだて」事業所で担当させて頂いている皆様の共通認識に努めています。
- ・ゆざまちケアマネジャーの会には欠かさず出席し、町内のケアマネジャーの皆さんと、いつでも相談できる関係作りに心掛けました。
- ・施設内、外の研修に参加して、介護保険や医療の情報収集に努めました。

特別養護老人ホームにしだて利用者の状況

1. 地区別状況

	吹 浦	高 瀬	遊 佐	蕨 岡	稲 川	西遊佐	合 計
男	1	3	3	1	0	0	8
女	5	2	7	3	2	2	21
計	6	5	10	4	2	2	29

2. 年度別入退所の推移

区 分	新規入所者			退所者			退所者月別内訳											
	男	女	計	男	女	計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
H28年度	9	3	12	8	4	12	0	1	2	1	0	2	0	0	1	2	3	0
前年度	3	6	9	4	5	9	2	1	0	2	1	0	1	0	0	1	1	0
合 計	12	9	21	12	9	21	2	2	2	3	1	2	1	0	1	3	4	0

3. 年齢別状況

	～64	65～69	70～79	80～89	90～99	100～109	計
男	0	0	1	4	3	0	8
女	0	0	4	11	5	1	21
計	0	0	5	15	8	1	29

平均年齢 86.1歳（男86歳 女86.2歳） 最高齢 男94歳 女102歳 最年少 男79歳 女76歳

4. 介護度別状況

区 分	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計	平均介護度
H28年度	3	2	5	8	11	29	3.8
前年度	4	3	5	8	9	29	3.5

5. 医療受診状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	通院	1								5			2	8
	入院	2	2	1	1		1				1	2	2	12
外科	通院	1	2		2			2			2			9
	入院													0
整形	通院		1	1	1	1								4
	入院	1	1											2
泌尿器	通院	2			2	3	3	3	2	4	4	1	1	25
	入院								1					1
皮膚科	通院									1				1
	入院													0
眼科	通院													0
	入院													0
歯科	通院													0
	入院													0
精神科	通院	1												1
	入院													0
婦人科	通院													0
	入院													0
耳鼻科	通院		1											1
	入院													0
乳房外来	通院		1						1					2
	入院													0
月計	通院	5	4	1	5	4	3	5	3	10	6	1	3	50
	入院	3	3	1	1	0	1	0	1	0	1	2	2	15

6. 短期入所利用状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	一日平均
平成28年度	266	294	233	253	224	235	234	230	236	227	252	271	2,955	8.1
前年度	223	226	226	217	262	252	223	217	216	248	243	292	2,845	7.8

ケアプランセンターにしだて利用者の状況

①ケアプラン作成件

(常勤職員 3.2 名)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
作成件数	103	100	101	101	103	103	107	106	104	101	102	103	1,234
うち新規	5	2	5	4	4	4	3	3	3	1	1	4	39
1人平均件数	32.2	31.3	31.6	31.6	32.2	32.2	33.4	33.1	32.5	31.6	31.9	32.2	32.1
介護予防受託件数	21	21	20	22	20	20	17	16	16	18	17	18	226
前年度作成件数	102	103	106	104	104	98	98	95	98	101	101	98	1,208
前年度介護予防件数	25	22	23	23	22	22	23	23	21	22	21	23	270

②介護度別内訳

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
要介護 1	47	45	48	46	49	47	46	44	45	43	42	41	543
要介護 2	25	24	21	23	27	25	33	35	35	34	35	38	355
要介護 3	13	14	15	17	13	15	13	13	12	12	11	9	157
要介護 4	14	12	13	13	12	14	13	13	11	10	12	13	150
要介護 5	4	5	4	2	2	2	2	1	1	2	2	2	29
総人数	103	100	101	101	103	103	107	106	104	101	102	103	1,234
平均介護度	2.1	2.1	2.0	2.0	1.9	2.0	2.0	2.0	1.9	2.0	2.0	2.0	2.0

平成28年度防災活動報告

◇訓練・点検及び会議等

月 日	訓練内容	結果報告
4月19日(火)		① 防災委員会
4月19日(火) 18:00~18:30	職員通報訓練	・自火報連動の火災一斉メールシステムを使用した119通報訓練 職員構成で末端まで行き届くかの訓練、安否確認返信メールを確認して訓練終了
5月18日(月)		② 防災委員会
5月25日(水) 14:10~14:40	通報避難訓練 (夜間時想定) ・消防署立会 ・消火器訓練	・夜間時における通報避難訓練を実施。職員各自の役割分担の確認する。参加人員50名 ・水消火器4本使用 119番通報訓練 火災一斉メールシステム・自家発電機作動訓練の実施
7月1日(金)		③ 防災委員会
7月19日(火) 18:30~19:30		・総合避難訓練打合せ ・車椅子、電動ベッドの取扱説明
7月24日(日) 19:00~19:30	総合避難訓練 (夜間時) ・消防署立会 ・消火器訓練	・横三地区・消防第三分団等と合同で通報避難訓練を実施。参加人員約80名 ・119番通報訓練 火災一斉メールシステム ・訓練終了後、災害対策会議 19:30~20:15
9月8日(水)		④ 防災委員会
10月6日(木)		⑤ 防災委員会
10月13日(木) 14:10~15:30	通報避難訓練 (昼間時)	・日直想定における避難訓練を実施する。参加人員50名 ・119通報訓練 火災一斉メールシステム・自家発電機作動訓練
12月5日(月)		⑥ 防災委員会
1月13日(金)		⑦ 防災委員会
1月14日(木) 18:30~17:00	職員通報訓練	・119番通報装置 火災一斉メールシステム・119通報訓練 参加人員35名 ・家族・地区区長等通報確認
3月10日(金) 14:30~15:00	地震時通報避難訓練 ・吹浦沖50k ・M6想定 ・津波なし想定 ・停電20分想定	・防災設備保守点検(委託業者)参加人員50名 ・安否確認メールシステム・自家発電機作動訓練 ・負傷者1名発生 救護班救急処置訓練 ・情報班 行政・家族等に被害報告の対応訓練
3月15日(水)		⑧ 防災委員会